



△△△△ 1998年度採集観察会 △△△△

場 所：埼玉県飯能市天覧山 雨天決行!!! → (雪でも確実に
行きます)

最終回：1999年 2月21日 (日)

集 合：西武池袋線飯能駅北口階段下 午前10時 (時間厳守)

10時05分発、国際興行バス(2番乗り場)乗車
「天覧山下」下車(¥160) 所要時間約15分
バス停から「天覧山」山頂へ。
山頂にて昼食後、付近で採集観察予定

世話人：平松毅久
(☎ 0492-33-8792)

集合に遅れて来られる場合は日高方面・高麗川方面・武蔵台方面以外のバスにご乗車お
願いします。10時05分以降は10時25分・11時06分・20分・37分があり
ます。昼食は事前に用意していただいた方が無難です。

1999年度採集観察会予告

場所：山梨県扇山 雨天決行

ここは、1986年度に一度採集会が実施されました。しかし、記録が残されて
いませんので、今年度再実施することにしました。

日程：第1回 5月16日 (日)

第2回 7月11日 (日)、第3回 10月17日 (日)、

第4回 2000年2月20日 (日)

集合：JR中央本線「鳥沢駅」改札口周辺。改札口は一つしかありません。

午前11時 (時間厳守)

弁当は付近で買えませんので、各自持参して下さい。

コース：鳥沢駅から甲州街道を渡り扇山登山道を直進。道なりに採集をしていきます。
扇山山頂には辿り着けませんので、麓の林道周辺で昼食と午後の採集会をす
る予定です。

世話人：新海 明 (042-522-2605) ・大川秀治 (042-744-1470)

No. 96 の 原稿締切は4月末日です

→ 総会・例会のお知らせ ←

また、会場が変更になりますので、ご注意ください。

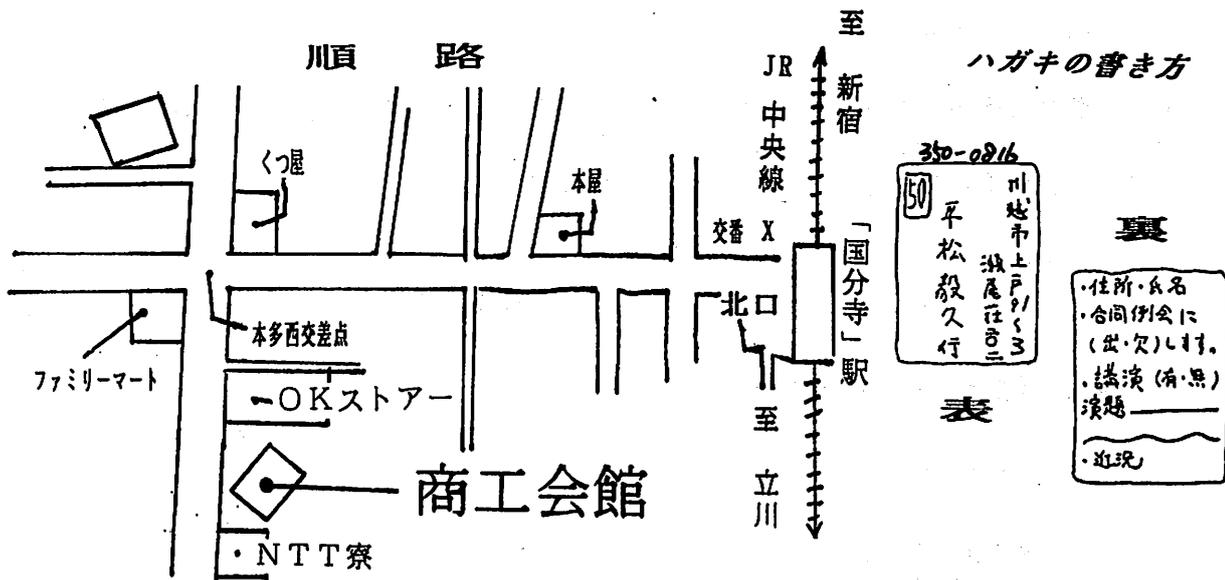
日時：5月9日(日) 10:00～

場所：東京都国分寺市商工会館 (☎ 042-323-1011)
「中会議室」にて

東京都国分寺市本多2-3-3 JR中央線「国分寺」駅北口 下車約10分
「総会」と講演と懇親会

⇒世話人：事務局・平松毅久 (☎ 0492-33-8792)

同封のハガキにて出欠と近況を平松まで。近況は「通信」誌上に掲載します。



東京蜘蛛談話会 1999年合宿について 予告

東京蜘蛛談話会の1999年の夏の合宿は、福井県敦賀市周辺で実施します。日本海に面した北陸の地での合宿は初めてです。この機会に是非とも多くの会員の参加をお待ちしています。

日程：1999年7月24日(土)～26日(月) 2泊3日

宿泊地、費用等は未定です。詳細は5月発行予定の談話会通信(N0.96)をご覧ください。

(担当者：金野 晋・新海 明)

萱嶋先生の米寿を祝う会 をします

東京蜘蛛談話会の生みの親である萱嶋泉先生は今年の8月に米寿を迎えられます。また、先生は国立音楽大学付属音楽高等学校（音高）でも永らく教鞭をとっていらっしゃいました。そこで、今回は音高関係者とご一緒に先生の米寿をお祝いする会を下記のようにとりおこなうことにしました。この機会に是非ご参集ください。

記

日時 1999年5月9日（日） 午後6時より （談話会総会・例会後に実施）

場所 JR中央線立川駅北口下車 立川パレスホテル

参加を希望する方は、1999年3月末日までに「はがき」で申し込み下さい。

申し込み先 〒190-0022 立川市錦町 3-12-16-1103 新海 明

参加を申し込まれた方には、後日別途ご案内を送付させていただきます。

詳細については、新海 明（042-522-2605）までお問い合わせ下さい。

K I S H I D A I A 発刊「30周年記念号」原稿引き続き募集！

1999年1月でKISHIDAIAが誕生してから、30年になります。KISHIDAIA76号および77号を「30周年記念号Ⅰ・Ⅱ」として出版することになったことは前号でもお知らせしました。まだ原稿の締切には余裕がありますので、たくさんのご投稿をお待ちします。

記念文：談話会の活動についての思い出、要望など何でも。字数制限なし。

締切：77号 1999年 2月末日

池田博明

〒258-0018

神奈川県足柄上郡大井町金手1099

電子メールアドレス fwg9084@mb.infoweb.ne.jp

詳細は新海 明

〒190-0022

東京都立川市錦町3-12-16-1103

☎042-522-2605

↑ 原稿送付先 ↑

1998.12.6 (日) 10:15~17:15 東京都国分寺市立本多市民会館

司会進行：桑原幸夫(多足懇) (スライド：金野 晋)

(1) 開会の挨拶：萱嶋 泉 10:15~10:18

(2) 自己紹介 10:20~11:35 (3) 講演 11:35~17:10

①梅林 力 「ワスレナグモの交接からバルーニングまで」(スライド)

(昼休憩・記念撮影：12:20~13:30)

②新海 明 「西表島のヒメユウレイグモの網と餌捕獲」(スライド)

③山川 昇 「ケアシムカデの耐節棘について」(スライド・レジメ)

④萱嶋 泉 「湯原清次先生に教えて頂いた事」

⑤高橋 登 「横浜外国人居留地にいたデーニッツ、ローレッツ、ヒルゲンドルフについて」(スライド・レジメ)

⑥谷川明男・千田高史「チリイソウロウグモよおまえもか」(スライド)
→(発表：谷川)

⑦新海栄一 「クモ類による環境の評価」(スライド)

⑧平松毅久 「西表島産カラカラグモ科1種の網構造と造網構造 ~カラカラグモとの比較を通して」(スライド)

(4) 自己紹介追加

(5) 閉会の挨拶：梅林 力 17:12~17:15

(6) 懇親会 17:30~

参加者

池田博明、石島 力、今井正巳、梅林 力、小笠原幸恵、小澤實樹、小野展嗣、笠原喜久男、加藤七枝、加藤晴弘、加藤むつみ、金子信博、金野 晋、萱嶋 泉、工藤泰恵、桑原幸夫、小峰光弘、斉藤 博、笹岡文雄、貞元己良、佐藤幸子、新海 明、新海栄一、高橋 登、谷川明男、千田高史、徳本 洋、中島晴子、萩本房枝、初芝 涼、原山紀夫、平松毅久、松本誠治、安田明雄、山川 昇

(35名・50音順敬称略)

例会・総会会場についてのお知らせ

国分寺市立本多市民会館は、談話会の催しで始めて使用する会場です。にもかかわらず今回は遠く金沢や名古屋からも参加された方もいらっしゃいました。交通の便がよかったこともあったかと思いますが、みなさまありがとうございました。

さて実は長い間例会会場として使ってた東京都目黒区の駒場住区センターが、諸般の都合により利用できなくなりました。現在、談話会では例会等の開催場所について、利用の至便を最大点として会場設定を考えております。このような事情で、今後しばらく例会会場が一定しない可能性が出てきました。会員のみなさまにはご不便をお掛けするかもしれませんが、ご承知おきをお願いします。

1998年度第3回採集観察会 1998/10/18 於埼玉県飯能市天覧山 天候晴れ
参加者(敬称略);石島 力, 笠原喜久雄, 笹岡文雄, 嶋田順一, 新海 明, 西尾三枝子
平松毅久(以上7名)

目録

カネコトタテグモ科 カネコトタテグモy
ジグモ科 ジグモF
ウズグモ科 マネキグモy
ユウレイグモ科 ユウレイグモFye
ヒメグモ科 ヒメグモFy, オオヒメグモF, シロカネイソウロウグモy, トビジロイソ
ウロウグモy, オナガグモf, チリイソウロウグモF, ヤリグモy, ホシミドリヒメグ
モf, ヒシガタグモy
サラグモ科 アシヨレグモf
センショウグモ科 センショウグモe
カラカラグモ科 ヤマジグモy
コツブグモ科 ナンプコツブグモy
コガネグモ科 ハツリグモy, アオオニグモf, ツノオニグモy, チュウガタコガネグモ
y, ナガコガネグモFe, コガタコガネグモFe, ギンメッキゴミグモy, ゴミグモy
ヨツデゴミグモmy, オオトリノフンダマシe, カラフトオニグモy
アシナガグモ科 オオシロカネグモF, キンヨウグモFM, メガネドヨウグモy, ジョロ
ウグモFM, ウロコアシナガグモy
ヒラタグモ科 ヒラタグモFy
タナグモ科 クサグモFe
キシダグモ科 スジアカハシリグモy, イオウイロハシリグモy, アズマキシダグモy
ネコグモ科 ネコグモy
シボグモ科 シボグモy
アシダカグモ科 コアシダカグモy
エビグモ科 キハダエビグモy, アサヒエビグモy
カニグモ科 コハナグモy, ワカバグモy, セマルトラフカニグモy
ハエトリグモ科 ネコハエトリy, アリグモF, チャイロアサヒハエトリy, デーニッツ
ハエトリFf

計20科50種

事務局は 平松毅久 〒350-0816 埼玉県川越市上戸91-3 瀬尾荘202

@近況つれづれ (例会出欠ハガキより転載・アウエ順 原文ママ)

◇今井正巳(神奈川県相模原市)ザトウムシを中心に今調べています。

◆梅林 力(東京都杉並区)今年は忙しかった年です。いろいろ飼育して……観察するのもけっこう大変です。もちろん楽しいのですが、時間がすぐ経ってしまうので困っています。アワテないで、やっていきます。

◇小澤實樹(東京都世田谷区)ちよいちよ顔をみせてくれるハエトリグモとも、ゆっくりつき合えず、バタバタした毎日の昨今です。

◆小野展嗣(東京都新宿区)先日ロシアのある研究者からE-mailが突然入って、「日本のシャコグモを新種にして、その基準標本をそちらに送ったが届いたか」という。シャコグモが新種というのはあまり驚かないが、タイプがどっかへいっちゃったらことだなー。どうもロシアの郵便局がストライキをやっているらしい。

◇加藤七枝(東京都小平市)私はカワウという水鳥を調査、研究しています。クモに関しては、いつまでも初心者ですみません。でも通信等、いろいろ楽しみにさせて頂いています。大目にみてやって下さい。

◆木庭 奏(熊本県山鹿市)今年は久しぶりに庭にヤマシロオニグモ、ヌサオニグモが網を張って短期間でしたが、暮してくれました。その反面、ジョロウグモは山手から持ってきて棲わせたのですが、どこかへ移動してしまっただけで今年も出現なしの状態です。ヤサガタアシナガ、クサグモ、ササグモ、ギンメッキ、ヤマトゴミグモだけは、何年も棲み付いてくれていますけど。

◇嶋田順一(埼玉県飯能市)談話会の採集会が天覧山と家に近いため久しぶりに野外へ出ました。新しいメンバーの人にも会うことができ、わずかな時間ですが楽しい思いをしました。例会にも参加したいのですが店があるのでちょっと無理です。またいつか皆様にお会いするのを楽しみにしています。

◆新村 誠(神奈川県川崎市)いつも合同例会に出られず残念です。冬場はカモを中心に冬鳥のシーズンなので土、日は特に忙しくなります。相変わらずクモはちっとも上達しませんが、先輩方の聞きかじり見かじりで観察会など”しのいで”おります。

◇野崎文江(埼玉県入間郡毛呂山町)八月上旬に右手首を骨折してようやくギプスがとれました。ジョロウグモを追いかけています。今年は巣をかける位置が低いので何か自然現象にかわったことがおきるのかなと思っておりましたら、台風7号8号が上陸。埼玉でも15m(風速)の風が吹きました。3mの位置に巣をかけたくもは7号台風の風で吹きとんでいました。幸い近くに5mを越すさざんかの枝で命は助かって家の軒のところに巣をかけていました。1m位いの位置に巣をかけたクモは全部大きな巣(2mはじからはじまで)1.5mの巣をかけていました。現在(11月12日)成体めす2頭が1.5mの巣をかけています。いつも野菜を持ってくる農家のおじさんが「クモの動きで天候がわかる」「農作業をする環境指標になる」といつて帰っていききました。研究ということではないけれど

何かいろいろ自然環境の変化をクモに教えられています。

◆船曳和代（兵庫県姫路市）相変わらず土・日の休日には山へ入り、クモの網の展示標本作りに励んでいます。立命館大学の吉田先生の紹介で作品を十一月二日(月)～十一月二十七日(金)まで、芦屋の女性センターで展示して戴くことになりました。一般の方々がクモの網をどのように見て下さるか、興味津々といったところです。

◇峯澤 渉（神奈川県横浜市）知人の紹介で入会しました。これを機により蜘蛛に接していきたいと思えます。

◆吉田 哉（山形県山形市）最近、台湾蘭嶼のヒメグモ類の分類をしています。10種ほどですが今年中にまとめたいと思っています。←（編者註：「今年中」は1998）

◇和仁道大（千葉県千葉市）10月11日(日)千葉市の昭和の森にて、工藤泰恵さん、泉宏子さんと和仁の3人で「クモはいい虫？いやな虫？」という題でクモの観察会を開きました。参加者は千葉市民約70名で大盛況。「クモに親近感をおぼえた」「クモがこんなに沢山いるとは思わなかった」等々の参加者の感想でした。

他に通知を頂いた方々 出席：萱嶋 泉、新海 明、谷川明男、初芝 涼
欠席：中平 清、宮本美織、水野陽介

「談話会通信」について

1. 会の催しの告知など、会員のみな様への連絡を主な目的としています。その他クモおよび蛛形類全てに関する、「KISHIDAIA」誌ほど専門的でない文と新聞雑誌等の記事とを掲載します。
2. 郵便料金の関係で、本誌1号原則12頁最大20頁です。これに付録1～3枚ほどがつくことがあります。
3. 単年度最低3回の発行を基本としています。
 - ①その年度の1号目は5月第3または第4日曜日、2号目は9月第3日曜日、3号目は2月第1日曜日が発行日になります。
 - ②各号投稿締切は1号目が4月末日、2号目が8月末日、3号目が12月末日です。
 - ③締切を過ぎた投稿は原則次号掲載となります。
 - ④投稿文は内容によって、「KISHIDAIA」に転載をお願いする場合があります。
 - ⑤投稿の原稿と新聞雑誌等の切抜記事は原則お返ししません。
 - ⑥新聞雑誌等の切抜記事は、特別な場合を除いて「付録」の掲載になります。また「付録」は本誌とのバランスで、分量と締切によらず記事の掲載時期とが不定になります。

「談話会通信」の編集は笹岡文雄が行なっています。

投稿とご意見は下記の住所へお願いします。

〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-12-21

琥珀の中に蜘蛛を見た。

貞元己良

先日、10月28日～10月29日にかけて私の勤める会社の一泊旅行でした。行った場所は、福島県の「いわき湯本」という非常に寂れた温泉場で、スパリゾート・ハワイアン旧名常磐ハワイアンセンターが、近くにあるものの「湯本」は、昔炭坑があった時代に栄えた温泉場で、現在では宿泊施設も数えるほどしかなく、温泉場の周囲には、新興住宅地が建ち並ぶ、いわゆるベットタウン的な街に成りつつある所でした。

この「いわき湯本」の駅を境に繁華街とは逆の方向に、市で建てて管理運営をしているいわき市石炭・化石館というのがあり、テーマパークとしては、ちょっと見応えのある博物館で、寂れた温泉場には全然不釣り合いな場所という感がするところがあります。会社の旅行ですから、このような博物学に興味を示す変人は、私ぐらいなもので私の主張は通らず約30分の見学時間しか与えられず悔しい思いもしましたが、この博物館のロビーで渋谷の東急ハンズなどでよく見かける鮫の歯の化石やアンモナイトの化石等が、そのままの形若しくはペンダント等に加工されて販売されていたのですが、その中に琥珀もペンダントに加工され販売されておりました。琥珀のペンダントも値段には色々あり、虫入りが一番高く一万円ちょっとしたと記憶しています。その虫入りペンダントを一つ一つ目を皿にして眺めて見たところ、その中の一つにクモが入っているのがあったのです。クモの体長は約2mm、種類は多分ハエトリかなという感じ。これは絶対買い!と思ったのですが、財布に金が・・・あるには有るが女房子供に土産が買えなくなる。と一瞬頭をよぎるものがあり、買うのを諦めました。

そこでクモ入り琥珀のペンダントが欲しい方は、常磐道、いわき湯本I,C(都心から約3時間弱)、道路標示にしたがって走行すること約15分で「いわき市石炭・化石館 一福島県いわき市常磐湯本町向田3番地の1 ☎0246-42-3155代、AM9:00～PM5:00」に到着します。尚、電車で行ってもスーパー日立に乗れば2時間弱で「湯本」駅には、着くそうです。入場料は、570円でした。

KISHIDAIA担当は木村知之 ☎215-0012神奈川県川崎市麻生区東百合丘4-38-12
原稿送付は池田博明 ☎258-0018神奈川県足柄上郡大井町金手1099

平松 毅久

10月18日早朝折からの台風10号接近に伴う風雨が窓を打つ音で目覚める。すっかりお馴染みになった雨でも雪でも観察会を敢行する談話会の採集会当日である。台風の影響で関東地方は雨続き、天気予報では採集会の日も大雨の恐れがあるとの事ではっきり言って憂鬱であった。担当者である以上休むわけにはいかないからである。談話会役員の中で自他共に認める最も根性なしでずぼらな筆者は先号で晴雨不問の採集会を拙文中で「こんな伝統そろそろやめにしません？」と皮肉ったが、まさにそれが自らの身に降りかかって（しかもこんなに早く！）こようとは夢にも思わなかった。やはり天に唾する不逞の輩に天罰が下ったのか—しかし筆者は反省するどころか「雨の日に採集なんかしてもクモなんぞいるか！何でこんな時に台風なんか来るんだ！」などと呪いの言葉を呟きながら貧しい朝食をとりつつまたもや天に向かって唾をしようとした時、な、なんと風はやみ青空が覗いて来たではないか。筆者はあわてて唾を飲み込み、「ああ、天は我を見捨て賜わざりけり。天は人の上に人を造らず。談話会はクモの上に人を造らず。カシコミカシコミナンマイダ」と八百万の神の筆頭におわす蜘蛛の神に感謝しつつ部屋を出た（我ながら現金なヤツ）。

天覧山の駐車場に車を止め徒歩20分弱の集合場所飯能駅へ向かう。9時20分頃飯能駅北口階段下に到着。ところが待てど暮らせど誰も来ない。最初は今日の参加者は何人くらいかな？たぶん少ないだろう—などと気楽に構えていたが、時計の針が9時50分にさしかかるあたりになるとさすがに『談話会史上初！採集会参加者世話人1人』という通信の見出しが頭に浮かび始めた。道行く人は一人長靴姿の筆者を奇異な目で眺めて通り過ぎて行く。「まあなるようになる。一人気楽に行くか」と開き直りかけた頃地元埼玉在住の西尾さんが来られた。その後しばらくして笹岡さんとやはり地元の笠原さん、初参加の大学生石島さんの計5名となったところでバスに乗り込んだ。

天覧山下バス停から駐車場まで歩き、自己紹介後山の入り口へ向かう途中東飯能駅からタクシーで来られた新海明さんに遭遇した。ここから恒例の1時間に100mペースで標高195m（実質95m）の頂上を目指して藪を覗き込む変な人達（ちなみにおそらく全員自覚症状なし）の行進が始まった。知らない人からすれば「月搜し物はなんですか？見つけにくい物ですか？」と井○△水の歌でも歌って突っ込みの一つも入れたくなるかもしれない。中腹までは石島さんがクサグモの網でやたら黒っぽいチリイソウロウを採ったのと筆者がキンヨウをピーティングで採った以外とくにめぼしい獲物もなかった。ここで西武線飯能駅の1つ手前の元加治で焼き鳥屋を営む嶋田さんが忙しい店の準備の合間を縫って駆け付けて下さった。実は埼玉で採集会がある時は店にお邪魔してアルコール漬けの最終会をやることになっている。いつも店に長居してご迷惑をおかけしているにもかかわらずこうして採集会にも顔を出していただけるのは嬉しいし頭の下がる思いである。この場を借りて御礼申し上げます。

頂上付近の岩場まで来ると笹岡さんと新海さんがカネコトタテを探し始めた。1981年度

の採集会で記録されながら今年度は過去2回とも見つからなかっただけに、トクテグモ類に造詣の深い笹岡さんは最初から気合いが入っていた。そしてお2人の執念が衰り少ないながらついにカネコトクテの住居と住居内にクモがいることが確認された。この日一番の収穫と言えるだろう。頂上に全員揃ってから昼食となったが、台風一過のせいか特に見晴らしが良く空も澄んでいた。しかし笹岡さんの顔はそれ以上に晴れ晴れとしていたように感じたのは筆者だけだろうか？

昼食を終え最初のクモ合わせを済ませ山頂の立て札の前で記念撮影をした後、山頂を下りて午後の採集会スタートである。ジョロウの網の端にもはや交尾の機会を失ったとおぼしき脚が数本取れた弱々しい雄がいるのを見て、「もののあはれ」を感じた筆者の口から思わず「いずこも同じ秋の夕暮れ、いずこも同じ雄のたそがれ」という言葉が漏れたが幸い誰にも聞こえなかったようだ。その後ピーティングでツノオニが出た以外特筆されるクモは採集されず結局50種（未同定のものがあるので若干増える可能性はあるが）しか記録されなかった。台風直後でしかも小人数であることを考えればこんなもんだらう。そして幸か不幸か談話会の伝説に残る程の天候にはならなかったが、世話人である筆者の心に残る採集会であった。朝まで台風の余波が残る中参加を決断して下さった方々には心より感謝します。本当にお勤めご苦労様でした。これに懲りずにまた来て下さい。

1998年度談話会通信（No. 93～95）に投稿文などを掲載させて頂いた方々
（不同順・敬称略）

◎原稿

野崎文江、池田博明、新海 明、平松毅久、貞元己良、笹岡文雄

○切り抜き

梅林 力、畑守有紀、池田博明、新海 明、篠原圭三郎、赤羽尚夫、工藤泰恵、
初芝伸吾、高橋祐子、笹岡文雄

●近況ハガキ

梅林 力、小澤實樹、小野展嗣、新開 孝、藤井靖浩、朝倉幹晴、笠原喜久男、
野崎文江、赤羽尚夫、秋元 昇、今井正巳、佐藤幸子、谷川明男、新村 誠、畑守有紀、
中平 清、宮崎和代、入江照雄、石野田辰夫、加藤七枝、吉田 哉、船曳和代、
木庭 奏、嶋田順一、和仁道大、今井正巳

投稿文は本年度中いただいたものを、総て掲載させて頂きました。切り抜きについては、過年度いただいた分をも掲載しております。またお送りいただいた切り抜きの内、今年度中に掲載しきれなかったものもあることを申し添えます。

今年度も、たくさんの投稿ありがとうございました。来年度もよろしく願いいたします。

（「談話会通信」編集担当・笹岡）

会費納入状況(1998年12月31日現在 敬称略)

1995年度まで納入

伊藤 研 宮下 直 寺西 玉実

1996年度まで納入

宮園 あがさ 宮園 真理子 佐藤 理子 本木 洋子

1997年度まで納入

稲葉 茂代 河又 和夫 柿沼 智子 吉倉 眞 吉田 嗣郎 宮島 仁 佐々木 勝實
細田 みどり 山田 三重子 新海 栄一 生山 健 千田 高史 浅間 茂 早乙女 薫
増原 啓一 増田 進 大利 昌久 池田 千洋 池田 泉 池田 博明 竹内 慎
長田 佐智子 浜口 哲一 福田 英克

1998年度まで納入

芦田 喜治 安田 明雄 安藤 昭久 井原 庸 井上 尚武 井野 文雄 磯部 達男
稲垣 成二 永井 均 永田 勝利 横山 和正 加村 隆英 加藤 むつみ 加藤 七枝
貝発 憲治 笠原 須磨生 萱嶋 志門 萱嶋 泉 荻部 幸世 関口 晃一 亀川 宇多子
及川 照代 宮崎 和代 宮本 美織 桑川 和子 桑江 司 権田 重雄 古川 涉
古沢 笑子 後藤 好正 荒金 泰子 高橋 米夫 高田 勝 佐久間 良三 佐々木 智雄
佐々木 祐子 佐藤 和昭 斎藤 博 笹岡 文雄 山川 守 山本 一幸 秋元 昇
秋山 亜由子 初芝 伸吾 小笠原 幸恵 小川 敦央 小池 牧子 小林 健一 松田 浩二
松田まゆみ 上原 健 新開 孝 森 要 諏訪 哲夫 須賀 瑛文 水野 陽介 菅波 洋平
西条 雄介 西川 喜朗 西尾 三枝子 石川 みどり 石島 力 石野田 辰夫 赤羽 尚夫
川崎 慎二 川崎 拓兵 泉 宏子 前川 隆敏 大塩 一郎 大河内 哲二 大久保 光将
大石 洋人 大川 秀治 大野 正男 谷川 明男 中島 祥吉 中平 清 中野 隆雄
長井 芳夫 長島 忠義 鶴崎 展巨 貞元 己良 田中 徳久 田副 幸子 唐沢 良子
藤井 靖浩 徳本 洋 鍋田 修身 日下部 光代 畑守 有紀 八幡 明彦 伴 満
板倉 康弘 福島 彬人 峯澤 涉 牧 孝匡 木村 正吾 木藤 幸雄 野戸 章 野嶋 宏一
有田 立身 林 俊夫 鈴木 成生 蓮沼 克巳 浪波 徳義 和仁 道大 船曳 和代
中程 悦子 藤沢 庸助 梅田 泰圭 浜村 徹三

1999年度まで納入

引田 和明 塩崎 哲哉 下謝名 松榮 加藤 輝代子 海老原 憲昭 吉田 哉 吉澤 美香
久保田 克哉 宮下 和喜 古浜 隆 甲守 崇 高橋 登 高津 佳史 国見 裕久
山本 一博 山野 忠清 守 桂子 緒方 清人 小川 光昭 小峰 光弘 松田 久司
松本 誠治 新井 弥生 中島 晴子 朝倉 幹晴 田中 一裕 田中 穂積 嶋田 順一
東條 清 鶴田 忠雄 入江 照雄 梅林 力 萩本 房枝 米田 宏 北島 博 木村 正明
木村 知之 木庭 奏 野崎 文江 林 聡彦 鈴木 勝浩

2000年度まで納入

佐々木 健志 坂寄 廣 小野 展嗣 小澤 實樹 新村 誠 長島 充 浜岡 史子
平松 毅久 吉田 真

2001年度まで納入

笠原 喜久雄 菊屋 奈良義 古内 栄一 工藤 泰恵 今井 正巳 佐藤 幸子 新海 明

2002年度まで納入

立川 晴二 棚沢 新

2005年度まで納入

熊田 憲一 布施 佳子

2006年度まで納入

原 勝司

1999年度、**会員継続** お願いします。
会費は来年度(1999年)まで一般¥2,800、学生¥2,000です。

また **2000** 年度より、以下の通り **会費が値上げ** になります。
一般¥3,800、学生¥2,000となります。また2000年度以降会費前納いただける時は、値上げ後の金額にてお願いします。

以上会費について何かご不明の点ありましたら、下記まで。
#安田 明雄：〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1 中山駅前ハイツ1-506
☎ 045-934-9210

会費のお支払いは郵便振替が便利です。下記の番号でご利用ください。

郵便振込口座番号 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会

ΦΦ 事務局だより ΦΦ

*会員異動 1998年9月上旬～12月下旬 (敬称略)

(住所変更等)

稲垣 成二：〒647-0051 和歌山県新宮市警盾2-53 榎本マンション302
高橋 祐子：〒250-0873 神奈川県小田原市矢作122-3
安田 明雄：〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1 中山駅前ハイツ1-506
山野 忠清：〒592-0003 大阪府高石市東羽衣5-23-18

(入会)

石島 力：〒215-0912 神奈川県川崎市幸区中幸町4-28-10

稲垣成二さんの住所変更掲載がもれていました。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。
(事務局)

研究用標本求む！ キンカタハリオニグモ

オニグモ類の研究をしています。現在カタハリオニグモ属の再検討を手がけておりますが、キンカタハリオニグモの標本が極めて不足しております。お手元にキンカタハリオニグモの標本をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ拝見させてください。とくに雄の標本が足りません。研究終了後国立科学博物館に収蔵させていただければ幸いです。返却をご希望の場合には返却します。

〒215-0912 神奈川県鎌倉市七里が浜東2-3-1 神奈川県立七里が浜高等学校 谷川明男

原稿はコピーのコピーの為、印刷が不鮮明になります。ご容赦下さい。(編)



ろ、クモの牙はしっかりと本種の前肢に食い込んだままであった(写真2)。

その後の経過については最後まで確認していないが、観察した時間に限っても相当経過していることから、致命傷には至らなかったものと推測される。両種の体格の差が大きすぎたために、クモの毒も効力不足であったものと思われる。あるいは、噛み付かれた部分が急所を外れていたとも考えられる。

本例の場合、厳密な意味では天敵関係とはいえないかもしれないが、死に至らない捕食関係の一例としては面白いと考えている。

同様な例として、1997年8月18日午前11時25分頃、大阪府箕面市箕面公園にて、コハナグモ *Misumenops japonicus* の卵がアブラゼミ *Graptopsaltria nigrofasciata* Motschulsky の肢基部に噛み付いているところを観察した(写真3)。

アブラゼミはすでに死んでいたか、前記の例からみて、クモの毒が原因で死んだとは考えられない(コハナグモの卵は体が前種よりもかなり小さい)。また、クモ類は生体のみを獲物とすることから、死骸に噛み付いたとも考えられない。

したがって、寿命などによる死の直前のアブラゼミの弱い肢の動きに、クモが捕食本能を誘発されて噛み付いたと考えるのが妥当なように思われる。

(〒660-0061 尼崎市蓬川荘460)

「月刊むし」

← 初芝伸吾さん提供 ↓

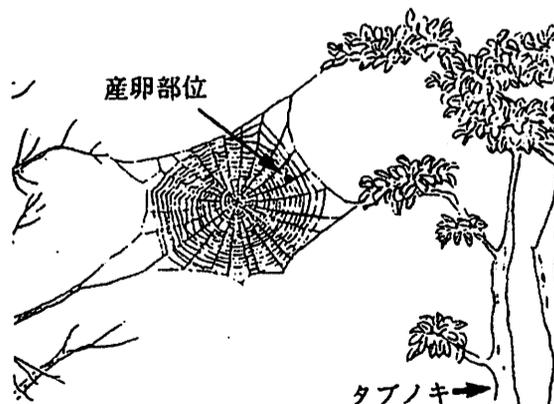
'98.2 No. 324

'97.12 No. 322

アオスジアゲハがクモの巣に産卵

中村 進一

1997年5月25日の午後2時ごろ、沖縄県八重山郡竹富町(西表島)白浜林道にて、アオスジアゲハ *Graphium sarpedon* の卵がクモの巣上(図の位置)に1卵を産付した。



クモの巣があったのは、林道片側の崖に近い場所で、一方は食樹のタブノキから、もう一方は枯れ枝から張られていた。筆者が本種に気づいてからは、食樹のタブノキにまわりつくものの産卵はせず、クモの巣の糸上にわざわざ産付した。

(〒236 横浜市金沢区六浦町750)

セミ類の天敵についての特異な例

大宮 文彦

1989年7月29日午後2時頃、兵庫県神戸市摩耶山市ヶ原付近にて、樹幹上に静止しているヒグラシ *Tanna japonensis* Distant が目に留まった。その際、本種の体の右側前方に異様なものを感じて近づいてみたところ、本種の前肢腿節にカニグモの一種の♀が噛み付いているのが確認された(写真1)。

クモ類が自身の体の10数倍もある昆虫類を攻撃している例は珍しいと思われるが、後記の例とも考え併せると、本種の前肢の動きにクモの捕食本能が誘発されたものと考えられる。しばらく観察を続けていたが、その間本種にはまったく動じる様子がなく、クモの毒の影響も全然ないように感じられた。

5~6分後、さすがに前肢に刺激を感じたのか、本種はクモを振り払うように飛び立ち、5mほど離れた別の樹幹に移動した。再び近寄って確認してみたところ、



梅林 力さん提供 ↓

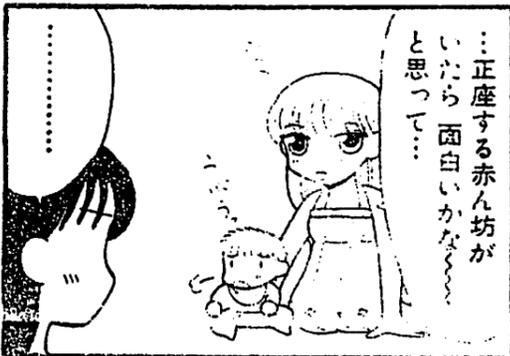
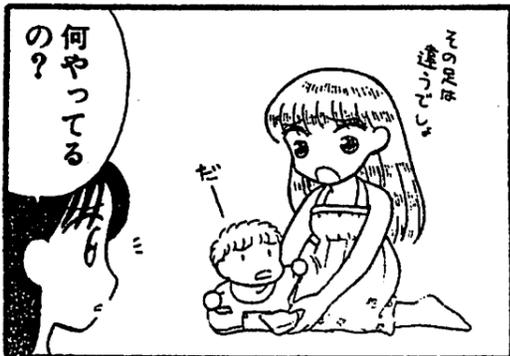
朝日新聞

1998.9.24

朝露をあびて 町田市 大内 哲郎
(「日本の自然」写真コンテスト)



赤ちゃんで遊ぼう



第134話 おわり 次号、クズちゃん、突如W杯の審判に!!

高橋祐子さん提供 ↑

「YOUNG JUMP」号数不詳「私立T女子学園」p.121より

No. 95 付録2

ののちゃん

522



お天気衛星

大雪が通った後、夜空に白銀の波を帯びて飛んでくるといふお天気衛星(蜘蛛)が茶を光らせて飛んだと、新潟県新井市に住む知人から便りがあった。十月後半、雪迎え……

「大雪が通った後、夜空に白銀の波を帯びて飛んでくるといふお天気衛星(蜘蛛)が茶を光らせて飛んだと、新潟県新井市に住む知人から便りがあった。十月後半、雪迎え……」

「お天気衛星(蜘蛛)が茶を光らせて飛んだと、新潟県新井市に住む知人から便りがあった。十月後半、雪迎え……」

「お天気衛星(蜘蛛)が茶を光らせて飛んだと、新潟県新井市に住む知人から便りがあった。十月後半、雪迎え……」

梅林 力さん提供
朝日新聞

蜘蛛の糸

大岡 信

蜘蛛の糸にかゝれる木の葉かぞふれば軒の松の葉梅さくらの葉

『大隈道集』所収。「ものさびしき時よめらう」と題する。さびしいのは退屈してもいたからだろう。そんな時でも歌は詠めるという好例としても引けそな歌。雪道は明治に入ってから偶然佐佐木信綱によって発見された俳句歌人だが、その屈託なき詠風は、平明さゆえに時代を超えた魅力をもつ。「貴人にあらねばこそはやすく見れ花といへば花月といへば月」。もったいないのが紅葉。



一人ひとりに「不況マインド」がすみついてしまった……。『慣れればかわいいものさ』
山田 紳

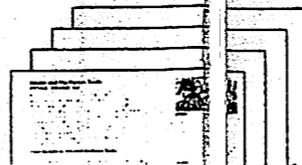
Anansi and His Visitor, Turtle

アナンシと おぎやくの カメ

むかしむかし、アナンシというクモがいました。
 あるひ、アナンシがゆうごはんをたべようとしたとき、
 カメがたずねてきました。
 いちにちじゅうあるいておなかがべこべこになったカメは、
 アナンシのいえからただよってくるおいしそうなにおいに
 さそわれてやってきたのです。
 このあたりには、おぎやくならだれにでもごちそうしなければいけないと
 いうきまりがあります。
 アナンシはこころのなかではうんざりしましたが、
 つくりわらいをしていました。



【1枚目】



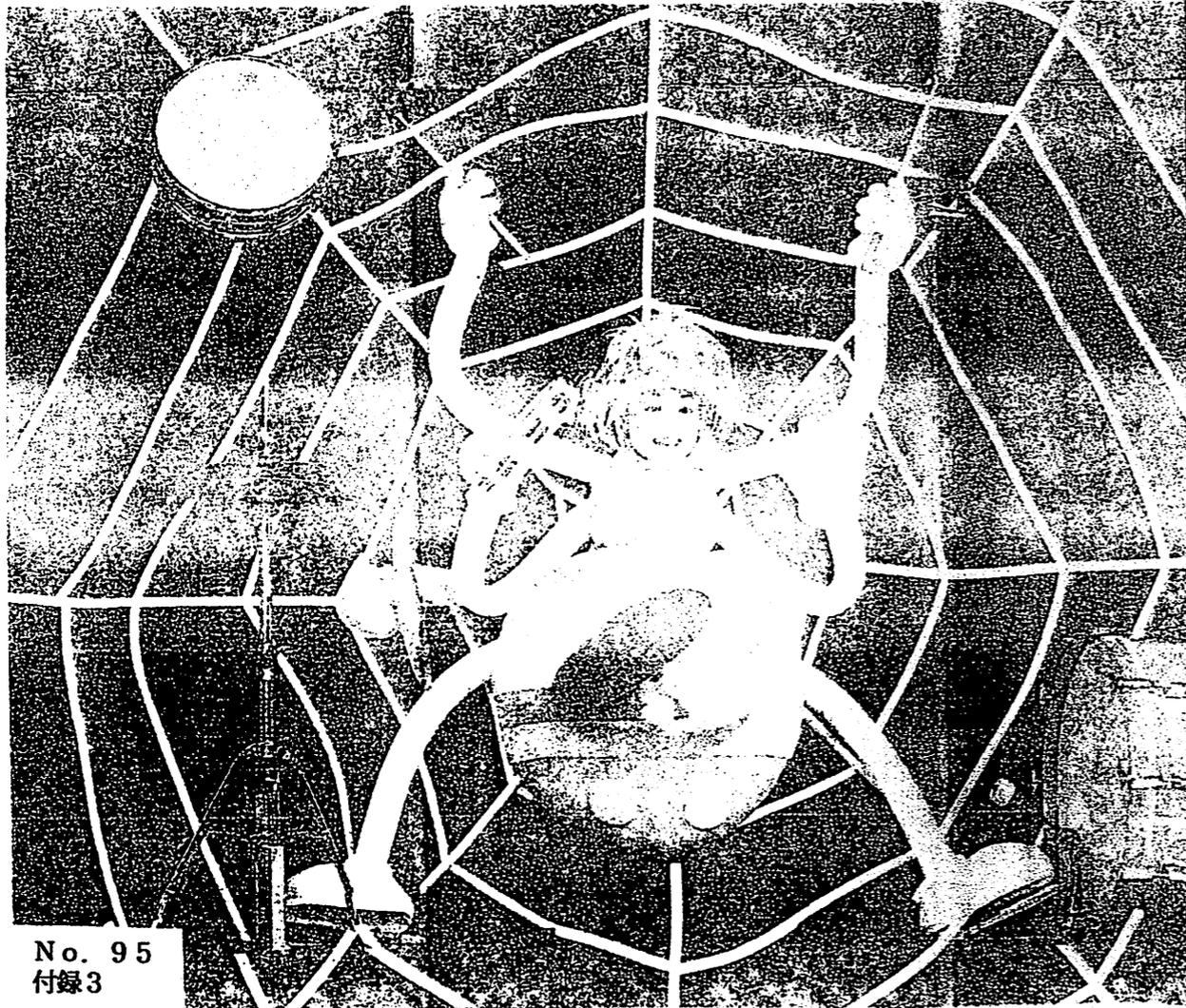
原稿はコピーのコピーの為、
 印刷が不鮮明になります。
 ご容赦下さい。(編)

NHKテレビ
 「英語であそぼ」テキストより

高橋祐子さん提供 ↓ 号数不詳

↑ 初之 伸吾さん提供 →

98.9月号



No. 95
 付録3



